

7月3日

高松市・南昌市友好都市式典に参加



高松市・南昌市の友好都市提携36周年記念式典が高松市で開催され参加しました。南昌市人民政府 高世文市長をはじめ、大勢の訪問団の皆様が来高され、これまでの歩みと今後の交流拡大を約しました。

8月8日

瀬戸内国際芸術祭イベント参加



瀬戸内国際芸術祭のベトナムプロジェクト記念シンポジウムに参加しました。

今、日本に63万人ものベトナム人が暮らし、香川県でも多くの方が働き・暮らしています。今や、お互いなくてはならない関係であり、交流をより良いものと発展させるために、この瀬戸芸で文化芸術が橋渡しとして、進化の機会を得られたことを大切にしたいと思います。

会計報告（政務活動費）

令和7年度（4月～12月）

経費の区分	金額
1 調査研究費	72,771
2 研修費	0
3 広報費	71,140
4 広聴費	0
5 要請・陳情活動	0
6 会議費	18,500
7 資料作成費	10,650
8 資料購入費	27,008
9 人件費	0
10 事務所費	0
合計	300,069円

*高松市議会のホームページで全ての領収書を公開しています。

主な活動実績 2025年4月～9月

- 4月9日 勝賀中学校・入学式に参加
- 11日 弦打小学校・入学式に参加
- 5月6日 瀬戸内国際芸術祭・塩サミット参加
- 23日 高松地区保護司会総会 参加
- 24日 香川県行政書士会総会 参加
- NPO 法人子どもの虐待防止ネットワーク・かがわの総会 参加
- 6月9～25 第4回 高松市議会定例議会
- 9日 DEEP☆KICK 70kg 級チャンピオン 本野有哉 市長表敬 同席
- 13日 46 回目となる一般質問に登壇
- 26日 NPO 法人アーキペラゴ総会 参加
- 29日 高松市総合防災訓練 出席
- 7月3日 高松市戦災犠牲者慰霊行事に参列
- 南昌市友好都市提携 35 周年式典 出席
- 4日 第 75 回社会を明るくする運動パレード参加
- 26日 高松市学校職員協議会・語る会に参加
- 29日 会派視察・千葉県山武市
- 30日 会派視察・新宿区・衆議院会館
- 31日 会派視察・多摩市・府中市
- 8月8日 瀬戸内国際芸術祭ベトナムプロジェクト参加
- 15日 高松まつり総踊りに参加
- 18日 高松市日中友好協会「瀬戸内国際アートデザイン展」参加
- 30日 学校図書館を考える会 参加
- 9月9～26 第5回 高松市議会定例議会
- 13日 高松市まちづくり学校・まちたね教室参加
- 17日 47 回目となる一般質問に登壇
- 29日 高松第一高校生との意見交換会

市民相談件数

2025年4月～9月 66件【累計 2,478件】

ご相談やお気づきの点がありましたら、お気軽にお問い合わせください。

高松市議会議員 春田 敬司 と明日を考える。

vol.24 2025.10

春風通信 Haru kaze Communication



小さな声に耳を傾け、市民の声を実現します！

「調査なくして発言なし」、「認識せずして評価せず」これは、先輩議員から引き継いできた、公明党議員としての心構えです。寄せられた市民からの声に寄り添い、自分の目で見て正しい情報を基に判断する！これからも市民の皆様と共に、高松のまちづくりを進めて参ります。

実績 不登校対策が拡充！

高松市の不登校児童生徒数は増加の一途を辿り、深刻な状況です。特に長期化、低年齢化が顕著であり、早期の対策が急務です。本市では教育支援センターを設置していますが、利用対象が小学4年生以上であることや、登録者数が全体の1割にも満たないなど、課題が山積しています。横浜市などの他都市では、校内サポートルームへの支援員配置や、民間ノウハウを活用した教育支援センターの開設など、先進的な取り組みが進んでいます。高松市においても、国の予算も活用し、校内サポートルームへの支援員配置や、民間人材の活用を早急に進めるべきと令和7年3月議会 で訴えました。

早速対策が検討され、夏休み明けに増加する不登校対策のため9月1日より、教育支援センター（虹の部屋）で、小学1年生～4年生までを受け入れる（なないう教室）と、小学5年・6年生及び中学生の少人数支援を行える（しずく教室）が開設されました！

迅速な対応に感謝し、更なる不登校対策の充実を推し進めて参ります！



文化遺産“船の体育館”の再生を！



旧香川県立体育館（通称：船の体育館）は、1964年に竣工した建築家・丹下健三の設計による近代建築の代表作です。国立代々木競技場（重要文化財）と同じ、つり屋根構造を採用した「双子の建物」と評される一方で、和船を思わせる独自の曲線美が特徴で、文化的価値が高い公共施設として長年親しまれてきました。しかし、耐震性不足や老朽化により2014年9月に閉館。以降、県は保存の道を探ってきましたが「苦渋の選択」として解体を決定しています。

今年の7月18日“旧香川県立体育館再生委員会”が、建物・敷地を買い取り、ブックラウンジ併設ホテルなどとして再生する事業案を県へ提出、記者会見を開きました。

10億かけて解体か？民間資金で再生か？

私は県が手続きに則って進めてきたプロセスを否定するものではありません。しかし、再生委員会から示された新たな事実の出現により前提条件が大きく変わったと認識しています。改めて民主的なプロセスで、公開された議論が必要だと考えています。

詳しくは右QRで



春風通信 Vol.24



高松市議会議員 春田 敬司 はるた けいし



オフィシャルサイト https://www.haruta.jp E-mail: info@haruta.jp



公式Line登録はこちら▶



春風通信 はるかぜつうしん Vol.24

発行者:高松市議会議員 春田敬司 発行日:2025年10月 連絡先:高松市香西東町14番地8 電話:087-881-6411

*詳しい内容はインターネット(議会中継)でご覧になれます。



2025年6月13日(金) 代表質問の項目

1. 市民と共創の都市計画づくりについて
2. 四番丁スクエアの今後の利活用について
3. 産業振興について
4. 観光振興について
5. 5歳児健康診査実施に向けた取組について
6. SIB手法等を活用した健康寿命の延伸を支えるヘルスケアサービスを構築する考え
7. カーボンニュートラル推進について

3. 産業振興について(コンテンツ産業)

世界のコンテンツ産業の市場規模は135兆円、日本の輸出額も5兆円と、鉄鋼産業に匹敵する規模です。また、アニメや漫画は訪日外国人観光客の「聖地巡礼」を促し、観光業にも波及効果をもたらす。京都市や天草市、札幌市などがコンテンツ産業誘致に成功している。高松市は瀬戸内国際芸術祭に繋がる創造都市としてのポテンシャルを秘めており、戦略的な取り組みでこの強みを活かすべきだ。

A. 市長の答弁

他自治体の事例も参考に、本市の強みを生かしたコンテンツ産業の振興に努めたい。

4. 観光振興について(瀬戸内クルーズ)

高付加価値観光の核となる瀬戸内海クルーズの推進について、海外のリパークルーズの成功事例などから、需要の大きさが示されている。また、2027年春開業予定の「スーパーヨット神戸」は、海外からのラグジュアリーボート誘致の拠点となり、高松港がその最初の寄港地となるよう、連携強化が求められる。これまでも小型・中型クルーズ船やスーパーヨットの受け入れ環境整備の重要性を繰り返し訴えており、今が瀬戸内海クルーズ推進の大きな好機だ。

A. 市長の答弁

更なる瀬戸内クルーズ観光の振興が図られるよう、県や関係団体などと連携して取組む

詳しくは右QRで



2025年9月17日(水) 一般質問の項目

1. 空き地の利活用について
2. 創造性あふれる子どもの育成(芸術士)について
3. デジタルデバイド(格差)の解消について
4. 男女共同参画の推進について

1. 空き地の利活用について

近年、全国的に空き地が急増し、管理不全による問題(草木の繁茂、不法投棄、火災リスクなど)が深刻化している現状を指摘。国の「空き地の適正管理及び利活用に関するガイドライン」策定を受け、空き家対策と空き地対策の連携強化、利活用制度の推進、そして空き家・空き地を一体とする条例制定の必要性を求めた。



A. 都市計画局長の答弁

空き家・空き地対策の共通点に着目した統一かつ効率的な対応の必要性を認識している。今後、他市事例も参考にしながら、関係部署との連携を強化し、空き地対策や利活用制度の見直しを図りたい。

2. 創造性あふれる子どもの育成(芸術士)について

16年目を迎える「芸術士派遣事業」について、本来の「感性や創造力を育む」という趣旨から乖離している現状を指摘。子どもの創造性を育む機会を充実させる「素材が集まるアート工房」や「アートと子どもたち国際研修センター」構想など、更なる充実の考えを求めた。

A. 市長の答弁

本市の誇るべき独自事業であり、保護者からの好評価も得ており、今後も子どもたちの感性や創造力を豊かにする取り組みを進めたい。

詳しくは右QRで



会派視察報告(7月29日~31日)

①中小企業支援②障がい者の就労③学校の働き方改革等④生活困窮者の学習支援⑤ファシリティマネジメントについて興味深い取組みを行っている視察先を選定し学んで参りました。

*詳しい内容はインターネットでご覧になれます。



1 千葉県山武市: 「さんむエコノミックガーデニング推進協議会」 (EGさんむ)

地域経済活性化のため、民間主導の「さんむエコノミックガーデニング(EG)」を採用。商工会青年部などが中心となり、産・学・公・民・金が連携しています。ワーキンググループ活動を通じて、山武杉活用や地元の食の交流会で地域資源を活かしたビジネス創出や地産地消を促進。また、小・中学生向け「未来デザインゲーム」で次世代育成にも注力しています。この民間主導の取り組みは、繋がりと消費を広げており、高松市の中小企業支援や次世代育成の参考となりました。

2 新宿区: 「新宿区障害者福祉事業所等ネットワーク」 (新宿Quality)

福祉事業所の連携を通じて障害者の仕事創出と賃金向上を図っています。特に「ミツバチプロジェクト」は、複数の事業所が協力し、都会での養蜂に挑戦。伊勢丹新宿店が屋上を提供し、全量買い取りとブランド化を行う「Win-Win」の関係を築きました。これは、製品だけでなく背景にあるストーリー性に価値を見出す成功事例です。賃金保証の仕組みや、地域への啓発活動も展開。高松市における行政の福祉事業所への支援のあり方を参考とします。



3 山崎正恭衆議院議員と衆議院会館にて (学校の働き方改革、こども誰でも通園制度、不登校対策)

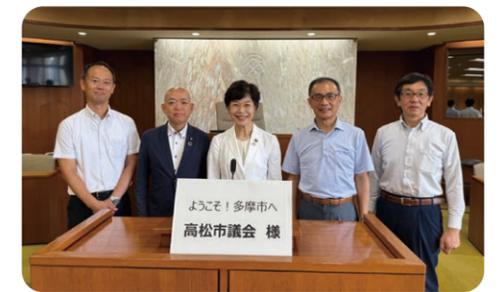
「教員の働き方改革」では、長時間勤務是正のため、業務の3分類化やDX推進、時間外在校時間の上限設定

(月45時間)を徹底。処遇改善や支援スタッフ拡充で職場環境を改善します。高松市でも業務分担やDXを後押しします。

「こども誰でも通園制度」は、就労要件を問わず、全ての子どもを支援する新制度です。月上限10時間まで柔軟に利用可能で、令和7年度の試行を経て令和8年度に全国展開予定。高松市でも運用を開始しており、総合支援システムの導入状況などを確認します。不登校対策としての「かがやきスクール」構想についても意見交換しました。

4 多摩市:「スタディークーポン事業」

生活保護世帯の子どもを対象に「スタディークーポン事業」を実施。塾代の立て替え払い不要のクーポン券(電子も可)を導入し、貧困による学習機会の喪失を防ぎます。専門の学習支援コーディネーターが塾選びや進路相談をサポートする点が特徴です。受験生は最大30万円を支給。クーポン利用率は課題ですが、生活保護受給が知られる懸念を払拭し、学習意欲のある子どもを支援します。高松市でも、この貧困を理由とした学習支援策について調査し、導入を検討します。



5 府中市:「道路等包括管理事業」

インフラ老朽化と管理費増大に対応するため、道路や用水路などの維持管理業務の約8割を民間に「包括的民間委託」する事業を導入。市民アンケートで「道路がきれいになった」と評価され、苦情要望件数が大幅に減るなど市民満足度が向上しました。民間事業者の巡回により、不具合を早期発見・対応する予防保全型管理を推進。現在は管理費増大の抑制を目的としています。高松市でも、この先進的な官民連携による維持管理のあり方を検討します。